

平成27年8月

報道関係者各位

**第19回 コーヒーサイエンスセミナー 2015**

謹啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

全日本コーヒー協会では、下記の日程で2014年実施の研究助成で得られた成果をメディア向けに各先生から報告していただくコーヒーサイエンスセミナーを開催いたします。

当日は専務理事より内外のコーヒーの動向についてもお話しさせていただきます。

ご多忙中のこととは存じますが、関心のある方は別紙申込用紙に必要事項をご記入の上FAXにてお申し込みください。よろしくお願ひ申し上げます。

## 記

- 開催日時** 平成27年9月24日(木)  
14時00分～16時00分(受付開始 13時30分)
- 開催会場** 東京都港区新橋1-2-6  
第一ホテル東京 21階  
「ルミエール」  
TEL 03-3501-4411(代)
- 講演者** **山手 百合香 氏**  
鈴鹿医療科学大学 薬学部 研究員  
(別紙サマリー)
- 石神 昭人 氏**  
東京都健康長寿医療センター研究所  
老化制御研究チーム 分子老化制御 研究部長
- 足達 寿 氏**  
久留米大学 医学部 地域医療連携講座 教授
- コーディネーター** 石川 俊次 (全日本コーヒー協会 顧問ドクター)
- 定員** 50名

## 講演内容

1. 山手 百合香 氏 鈴鹿医療科学大学 薬学部  
「コーヒーによる紫外線照射後皮膚炎および色素沈着予防効果の検討」
2. 石神 昭人 氏 東京都健康長寿医療センター研究所  
「高齢マウスを用いたコーヒーによる老化関連遺伝子発現に及ぼす影響」
3. 足達 寿 氏 久留米大学 医学部  
「習慣的なコーヒー摂取は、心拍数を減少させ、全死亡を低下させる」

## プログラム

- 14 : 00 開会 ・司会 (セミナー説明)  
・主催者代表挨拶  
・コーディネーター挨拶 石川俊次
- 14 : 10 【セミナー1】  
講演：山手百合香氏 鈴鹿医療科学大学 薬学部 研究員  
演題：「コーヒーによる紫外線照射後皮膚炎および色素沈着予防効果の検討」
- 14 : 35 質疑応答
- 14 : 40 【セミナー2】  
講演：石神昭人氏 東京都健康長寿医療センター 研究所  
老化制御研究チーム 分子老化制御 研究部長  
演題：「高齢マウスを用いたコーヒーによる老化関連遺伝子発現に及ぼす影響」
- 15 : 05 質疑応答
- 休 憩**
- 15 : 20 【セミナー3】  
講演：足達 寿氏 久留米大学 医学部 地域医療連携講座 教授  
演題：「習慣的なコーヒー摂取は、心拍数を減少させ、全死亡を低下させる」
- 15 : 45 質疑応答
- 15 : 50 「内外のコーヒー動向など」 全日本コーヒー協会 専務理事 西野豊秀
- 16 : 00 閉会

## ご注意

- ・会場での受付時にお名刺を頂戴しております。
  - ・お申込み多数の場合、先着順とさせていただきます。
- あらかじめご了承ください。

### 申込先

全日本コーヒー協会事務局

FAX : 03-5649-8388

TEL : 03-5649-8377

※ 別添の申込用紙にご記入の上、  
お申込み下さい。

申込締切日: 平成 27 年 9 月 17 日(木)

## コーヒーサイエンスセミナー 申込用紙

宛先: 全日本コーヒー協会

**FAX: 03-5649-8388**

---

---

貴社名

---

参加者氏名(部署名)

---

ご連絡先

住所:

TEL:

FAX:

メールアドレス:

---

## アクセス方法



電車をご利用の場合	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ JR・東京メトロ銀座線「新橋駅」より地下歩道にて直結、徒歩約 2 分 (新橋内幸町地下歩道D出口)</li> <li>■ 都営浅草線・ゆりかもめ「新橋駅」より徒歩約 5 分</li> <li>■ 都営三田線「内幸町駅」より徒歩約 3 分</li> <li>■ 都営大江戸線「汐留駅」より徒歩約 10 分</li> </ul>
車をご利用の場合	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 汐留ICより約 5 分</li> <li>■ 東京駅より約 10 分</li> </ul>

## 講演者プロフィール

### **山手 百合香 氏**

鈴鹿医療科学大学 薬学部 研究員

最終学歴 : 大阪市立大学 大学院医学研究科 分子病態学講座  
後期博士課程修了 (医学博士号取得 2012年)

研究分野 : 光生物学、皮膚免疫学、皮膚・消化管粘膜の免疫応答変化

所属学会 : 日本生化学会、日本光医学光生物学会

研究歴

2012年～2013年 大阪市立大学 大学院医学研究科 脳科学寄附講座 特任助教

2013年～2014年 大阪市立大学 大学院医学研究科 皮膚病態学講座 研究員

2014年～2015年 鈴鹿医療科学大学 薬学部 研究員

発表論文

**UVA irradiation of the eye modulates the contact hypersensitivity of the skin and intestines by affecting mast cells in mice.** Yamate Y, Hiramoto K, Kasahara E, Sato EF.

*Photodermatol Photoimmunol Photomed.* 2015 May; 31(3):129-40.

**Immunological changes in the intestines and skin after senna administration.**

Yamate Y, Hiramoto K, Yokoyama S, Ooi K. *Pharm Biol.* 2015 Jun; 53(6):913-20.

**Intercellular pathway through hyaluronic acid in UVB-induced inflammation.**

Hiramoto K, Kobayashi H, Yamate Y, Ishii M, Sato EF.

*Exp Dermatol.* 2012 Dec; 21(12):911-4.

**Ultraviolet-A irradiation to the eye modulates intestinal mucosal functions and properties of mast cells in the mouse.**

Yamate Y, Hiramoto K and etc. *Photochem Photobiol.* 2011 Jan-Feb; 87(1):191-8.

..... は今回の全日本コーヒー協会助成研究での共同研究者の平本恵一先生 (鈴鹿医療科学大学 薬学部)です。

### **石神 昭人 氏**

東京都健康長寿医療センター研究所

老化制御研究チーム 分子老化制御 研究部長

1990年 東邦大学大学院博士課程修了、薬学博士

1992年 米国国立衛生研究所(NIH)、国立老化研究所(NIA)、客員研究員

1994年 東京都老人総合研究所・細胞化学部門、研究員

2005年 老化ゲノムバイオマーカー研究チーム・老化制御、リーダー

2008年 東邦大学薬学部生化学、准教授

2011年 東京都健康長寿医療センター研究所・老化制御研究チーム・  
分子老化制御、研究副部長、  
2014年から研究部長（現在に至る）。首都大学東京、客員教授（兼任）  
老化研究は30年に及ぶ。最近の研究で、ビタミンCが長期的に不足すると寿命が  
短くなることを明らかにした  
2006年東京都職員表彰「知事賞」受賞。  
主な著書『ビタミンCの事典』（東京堂出版、2011年）

## **足達 寿 氏**

久留米大学医学部、地域医療連携講座教授（内科学、心臓・血管内科講座併任）

専門分野 循環器疾患の予防、疫学

昭和59年：久留米大学医学部卒業

同年久留米大学第三内科入局

関連病院にて臨床研修後、

平成1年 2月：久留米大学第三内科疫学研究室にて研究を始める

平成5年 11月：医学博士の学位授与

平成8年 6月：研究のため2年間米国ミネソタ大学公衆衛生学疫学部門へ留学

平成10年 7月：帰学後、久留米大学循環器病研究所疫学研究室主任研究員

平成11年 4月：久留米大学第三内科講師

平成12年 4月：久留米大学循環器病センター外来医長

平成13年 4月：久留米大学第三内科医局長（平成16年3月までの3年間）

平成15年 4月：久留米大学第三内科助教授

平成19年 4月：久留米大学医学部内科学講座、心臓・血管内科部門准教授

平成22年 4月：久留米大学医学部、地域医療連携講座准教授（心臓・血管内科  
講座併任）

平成22年11月：久留米大学医学部、地域医療連携講座教授（心臓・血管内科講  
座併任）

現在に至る

## **所属学会**

日本循環器学会（評議員、循環器専門医）、日本内科学会（内科認定医）

日本循環器予防学会理事、日本高血圧学会評議員、日本動脈硬化学会評議員

日本疫学会評議員、日本臨床栄養学会評議員、日本医師会認定産業医

日本心臓病学会、日本プライマリーケア学会、

日本公衆衛生学会、日本痛風・核酸代謝学会、

米国心臓病学会

別紙サマリー

**山手 百合香 氏**

**「コーヒーによる紫外線照射後皮膚炎および色素沈着予防効果の検討」**

申請者 : 鈴鹿医療科学大学 薬学部 山手百合香

共同研究者 : 鈴鹿医療科学大学 薬学部 平本恵一

(研究指導、総括担当)

**和文要旨**

近年、地表に降り注ぐ紫外線照射量は増加しつつあります。地球表面に届く紫外線には、種類として長波長の紫外線 A 波 (UVA : 320~400nm) と短波長の紫外線 B 波 (UVB : 290~320nm) があり、生物への作用や影響が異なります。UVB は主に皮膚の中でも浅い表皮への影響が大きいです。そのため紫外線照射後の皮膚炎症症状発生や色素沈着変化には、UVB の関与がより大きいといわれています。

コーヒーの成分にはカフェイン酸やクロロゲン酸などのポリフェノールが多く含有されており、抗酸化作用があることは知られています。しかし、紫外線照射後の皮膚炎症症状や色素沈着変化に対して、これらのコーヒー成分がどのような効果があるのかは、細胞レベル(in vitro)では研究がなされていますが、実際に生体レベルでの研究はまだ少ないです。本研究者らは、コーヒー成分の中で特に重要なカフェイン酸とクロロゲン酸に着目し、C57BL/6j マウスを用いた動物実験(in vivo)において UVB 照射後の皮膚炎症および色素沈着を予防する効果の有無を検討しました。

背中を剃毛したマウスに UVB 照射 (1.0 kJ/m<sup>2</sup>/day×3 日間) を行い、その 5 日後に背中中の皮膚炎症症状・耳介表皮の色素沈着変化等を組織学的・生化学的に解析しました。各成分を使用し、塗付実験と経口投与実験を行いました。カフェイン酸、クロロゲン酸の塗付 (100 nmol/site) 又は経口 (100 mg/kg) 投与は試験期間中毎日(8 日間)行いました。対照群として、抗酸化作用を持つことで知られている緑茶ポリフェノールの 1 種であるエピガロカテキンガレート(EGCG : 緑茶カテキンの主成分)を使用しました。全群構成は Control 群、UVB 照射群、UVB 照射+溶媒 or カフェイン酸 or クロロゲン酸 or EGCG の計 6 群としました(各群 ; n=6)。

本セミナーでは、2 種のコーヒー成分を使用した塗付実験・経口投与実験での UVB 照射後の皮膚炎症および色素沈着抑制効果の検討結果と予想されるメカニズムについて報告させていただきます。